

# 大自然の中から 「心の豊かさ」を見出す



上野 勝さん  
東京都出身  
月山めノウ  
アクセサリー加工  
1993年 西川町へ移住

東京から西川町に移り住んで14年になります。『大井沢・自然と匠の伝承館』において月山メノウ細工を行っており、現在ではメノウ細工の体験指導だけでなく自らの作品を制作し販売もしています。

東京では会社でバリバリ働き、週末には全国各地に「釣り」に出かけていました。40代になると釣り場を訪れては、「老後は田舎で暮らそう。」と思うようになり、その頃から妻を連れて都内で催されているふるさとフェアなどで、東北を中心に新たな居住地を探しました。観光で訪れるのと実際に住むのとでは全く違い、住居や仕事を探すのに大変苦労しました。

山形を選んだのは「釣り」がきっかけでした。偶然出会った山形出身の釣り仲間と一緒に、特にこの大井沢には頻りに訪れていました。50歳を前にした時、何気なく「ここ(大井沢)に住もうかなあ〜」といった一言で、西川町の友人が畑付きの借家を紹介してくれたのです。土地や家はボーナス一回分ほどで買える金額でしたし、その後の生活も退職金や年金があればなんとかやっていけそうでした。子供はすでに独立していましたので反対はありませんでしたが、妻を説得するのが大変でした。何とか妻を説得した50歳の時、会社を辞めて西川町へやってきました。近くにスーパーもあり、医療機関も整備されていたので生活には何の問題もありませんでした。もっとも、水と空気が新鮮なので移住してからの14年間、風邪を引くこともなく病院に行ったこともありません。

田舎暮らしで得られるものは多く、特に四季の素晴らしさには感動しました。夏は冷房がいらぬほど涼しいですし、冬には雪国特有の寒さがありながらも雪の暖かさも感じます。また「食」においても山菜はすぐ取れますし、東京で売っているものとは味も大きさも比べ物になりません。自分で釣った魚を自分でさばいて新鮮な刺身を米処の旨い酒と一緒に食す、これはたまりません。

移住してきて問題がなかったわけではありません。雪の多さが予想以上で、雪下ろしには骨を折りました。言葉は3~4年もすれば理解できるようになりましたが、一番の問題は町の人たちとの付き合い方でした。まず、土地の人たちの信用を得るために借家をやめて一軒屋を購入して「住み続ける人なのだ」と理解してもらいました。また、移住してきて3年間は好きなことをして遊んでばかりいたので冷たい目で見られていましたが、地域でメノウ細工を始めたことで町に馴染むことができました。偶然にも伝承館の工房が空いていて自由に使わせて頂き、現在では伝承館の仲間で工人クラブを作り、地域の方と一緒にさまざまな催しも行っています。メノウ細工は、多くを独学で修得しました。今は伝承館でメノウ細工を体験した人からお礼の手紙を頂くことが喜びとなっています。将来の夢は後継者を育てることです。

[インタビュー後記]

上野さんはメノウ細工の技を伝えるだけでなく、自然の中で育まれる「心の豊かさ」も伝えようとしています。メノウ細工を体験し、上野さんとお茶をしながら語り合うことで、これからの第二の人生のヒントを得られるかもしれません。